VUCA 時代における学びの在り方

教育研究紀要委員長
矢田貞行

教育研究紀要第 9 号を皆様にお届けさせていただきます。2024 年は新年早々、能登半島地震、羽田空港航空機事故等、誰もが想像しなかった惨事が相次ぐ幕開けとなりました。被害に遭われた方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

このような惨禍の中、現代はまさに VUCA の時代と呼ばれています。VUCA とは、「変動性」（Volatility）、「不確実性」（Uncertainty）、「複雑性」（Complexity）、「曖昧性」（Ambiguity）の頭文字を取った言葉で、現代はまさしく「予測困難で、不確実、複雑で、曖昧」な時代です。確かに現代社会においては、誰も予想もできない事態が矢継ぎ早に起こっています。こうした身近に起きる想定外の出来事に対して、私たちは、どのように対応すればよいのでしょうか。また、このような時代を生き抜くためには、どうして行けばよいのでしょうか。

教育の分野では、OECD が 2019 年に「2030 年に向けての教育・技能の未来」（OECD Future of Education and Skills, 2030）と題するプロジェクトを立ち上げ、その中で VUCA な時代に立ち向かうべき教育の指針（＝羅針盤）として「学びのコンパス」（Learning Compass）を提唱しています。そこでは、今後予想される困難な時代を生き抜いていくためには、自分の人生および周囲の世界に対してよりよい方向に影響を与える能力、すなわち「エージェンシー」（agency）が必要であると主張しています。これは、学習者（児童・生徒・学生）からすれば、変革を起こすために目標を設定し、責任ある行動を取る能力を育成することを意味します。しかし他方で、学習者が上記の目標を達成するためには、それを支えていく周囲の大人や教育者である教師が、学習集団の伴走者として寄り添う能力も求められます。これからの教育は、学習者のみならず教育者も共にこうした学びの共通基盤を持って行かなければなりません。

これからの社会においては、1 人ひとりの個々人がウェルネス（精神的、身体的、社会的幸福）を追求・実現することであり、そのための「コンピテンシー」（＝知識、技能、態度、価値からなる能力）として、①新たな価値の創造力、②対立や葛藤に対処する力、③責任ある行動を取る力が求められています。このような能力の開発のためには、AAR サイクル（「見通し」（ANTICIPATION）→「行動」（ACTION）→「ふりかえり」（REFLECTION））が提唱されています。そこでは、学習者がある程度の見通しを立てた上で学習に挑戦し、試行錯誤を繰り返しながら修正・改善して必要な行動を起こし、何度もふりかえりながら学びが深まって行くのです。こうした学習の自己調整力が、初等・中等・高等教育を問わず、あらゆる教育段階において今日必要とされていると言え

るでしょう。ちなみに、我が国の現行の学習指導要領においてもこの考え方が既に取り入れられており、自己調整学習の方法を通して主体的に学び、考え、行動できる人間が求められています。

これからの時代は、Society 5.0 と呼ばれる lot や AI、ビッグデータ解析などの先端テクノロジーを活用し、社会の課題を解決する人間中心の社会を意図しています。こうした時代的社会的背景のもとで、私たち大学人も知恵を絞って日々の教育研究活動に生かしていきたいと思います。

参考文献

1. VUCA 時代とはどんな状況？ VUCA 時代を生き延びるための教育とは
   https://www.meikogijuku.jp/meiko-plus/other/2022024.html
2. 「VUCA」とは？【知っておきたい教育用語】
   https://kyoiku.shop.jp/196977/
3. ラーニングコンパス　日本語訳
   https://www.youtube.com/watch?v=3zXEXIrCMLk
4. まず挑戦・すぐに修正・改善 AAR サイクル
   https://shimane-ec.pref.shimane.lg.jp